

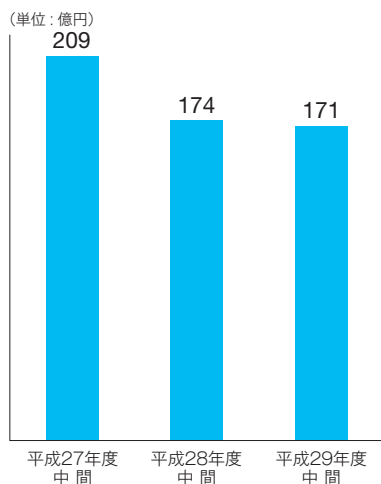
平成29年度中間期決算について

損益の状況

コア業務純益

171億円

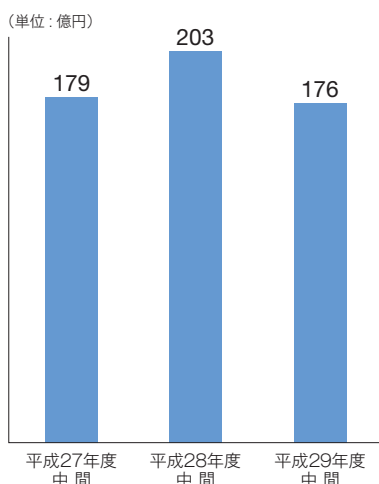
(前年同期比 △3億円)



中間純利益

176億円

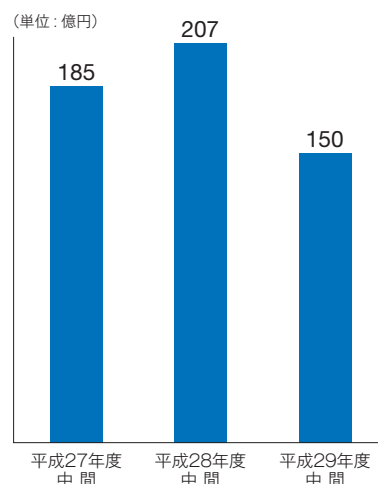
(前年同期比 △27億円)



親会社株主に帰属する中間純利益

150億円

(前年同期比 △57億円)

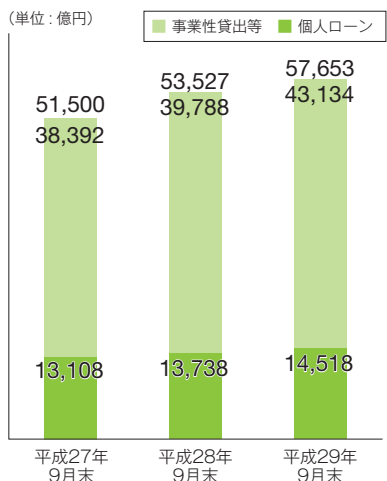


貸出金の状況

貸出金残高

57,653億円

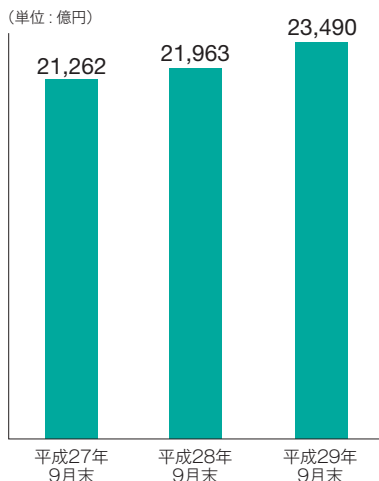
(平成28年9月末比 +4,126億円)



中小企業向け貸出金残高

23,490億円

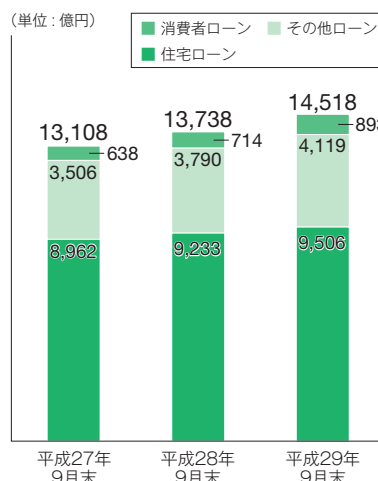
(平成28年9月末比 +1,527億円)



個人ローン残高

14,518億円

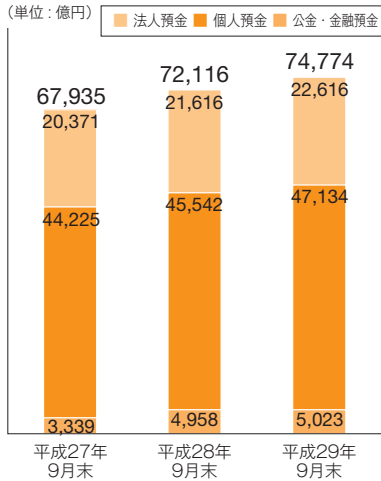
(平成28年9月末比 +780億円)



預金等の状況

預金等残高

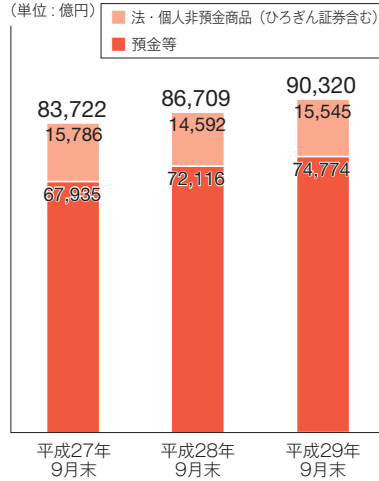
74,774億円
(平成28年9月末比 +2,658億円)



※ 預金等は、譲渡性預金を含んでいます。

法・個人預り資産残高 (ひろぎん証券含む)

90,320億円
(平成28年9月末比 +3,611億円)

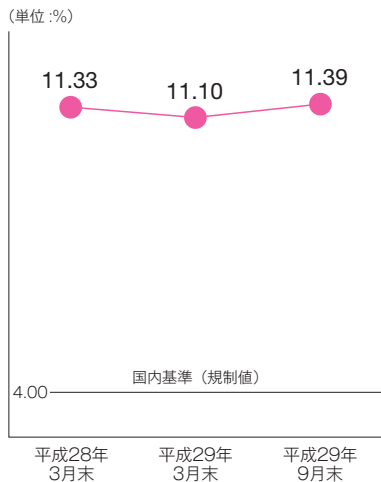


※ 預金等は、譲渡性預金を含んでいます。
※ ひろぎん証券の非預金商品残高は時価ベースです。

自己資本比率の状況

連結自己資本比率

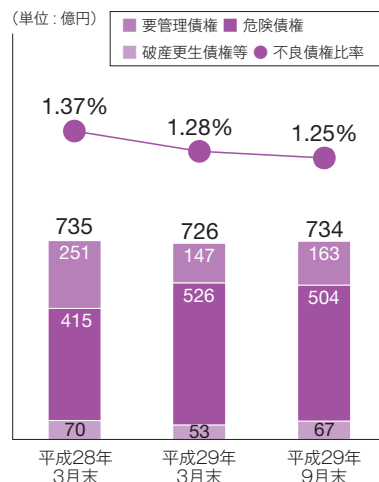
11.39%
(平成29年3月末比 +0.29ポイント)



金融再生法開示債権額の状況

不良債権比率

1.25%
(平成29年3月末比 △0.03ポイント)



※ 金融再生法開示債権額は、単位未満を四捨五入して表示しています。

用語解説

コア業務純益

銀行が本業でどれだけ収益をあげたかを示す業務純益から一般貸倒引当金繰入額と債券関係損益の影響を除いたものです。

「コア業務純益」= 「業務純益」+ 「一般貸倒引当金繰入額」- 「債券関係損益」

自己資本比率

銀行が保有する資産に対する自己資本の割合で、経営の健全性・安全性を表す重要な指標です。国内基準対象行には4%以上であることが義務づけられております。

不良債権比率

金融再生法に基づく「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」の合計額の、銀行の与信額全体（「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」に「正常債権」を加えたもの）に占める割合として表されます。